

## 新しい「平年値」ってなに？

天気予報を聞いていると、「あすの気温は〇月並みの暑さ(寒さ)となるでしょう」や「1日でひと月分の雨が降りました」などのフレーズを耳にしたことはありませんか？この「〇月並み」や「ひと月分の雨」は、どのような基準かといいますと「平年値」を用いています。「平年値」は連続した過去30年間の観測値等の平均値で、10年ごとに更新されます。今年がその更新の年で、これまでは1981年～2010年の観測値等を使用していましたが、新しい「平年値」は1991年～2020年の観測値等を使用します。対象となるのは気温や降水量、日照時間や風向風速などの観測値の他に、梅雨入りや梅雨明け、台風の発生数なども対象となります。では新しい「平年値」がこれまでとどのように変わったかご紹介しましょう。はじめに気温ですが、多くの方が近年、暑くなっていると感じている通り、年平均気温は全国的に0.1度～0.5度ほど高くなっています。数値が小さいのであまり上がっていないと感じるかもしれませんが「西日本から東日本の多くの所で、真夏日(最

高気温が30度以上の日)が3日以上増え、猛暑日(最高気温が35度以上の日)が4日以上増えた所もある」と聞くと暑くなっていると思われるかもしれません。

次に、降水量や降雪量も最近の昇温傾向の影響が表れています。冬場の降水量は、これまでの「平年値」と同じくらい多くなっていますが、降雪量は減っています。これは雪が降るほどの寒さにはならず、雨が降っていると捉えられます。最後にこの時期に気になる梅雨入り・梅雨明けについてです。今年統計開始以来、最も早くなった所がある梅雨入りですが、新しい「平年値」では梅雨入りの時期はこれまでとほとんど変わっていません。梅雨明けは1日から2日ほど早くなり、盛夏が早く訪れるようになっていくようです。この夏は、これまで「きょうは最高気温が平年を上回りとても暑い」と言われていた日が、「きょうはこの時期らしい暑さ」と変わって天気予報から聞こえてくることになりそうです。 日本気象協会 牧 良幸



## 役員

特別顧問	丹羽 晟 本保 芳明 大島 慎子
理事長	寺前 秀一
事務局長	杉 行夫 (理事)
支部長	長尾 亜夫
理事	須田 寛 分家 静男 山田 早苗 近藤 節夫 長尾 亜夫 澤田 利彦 今井 智康 望月 義人 高橋 俊朗 辛嶋 保馬 田阪 友隆 片山 裕司 杵掛 博光

## 団体会員

団体会員 アイエスカンパニー 一般財団法人NHKインターナショナル 株式会社えんれいしゃ 小田急電鉄株式会社 関西電力株式会社 九州旅客鉄道株式会社 社団法人くらしのリサーチセンター 株式会社グリーンキャブ 株式会社サマンサタバサジャパンリミテッド 三普旅行社有限公司 四国旅客鉄道株式会社 新菱冷熱工業株式会社 住友電設株式会社 大成建設株式会社 大成設備株式会社 大成有楽不動産株式会社 株式会社丹青社 第一交通産業株式会社 株式会社ダイエーコンサルタンツ 中国電力株式会社 一般社団法人中央日本総合観光機構 東海旅客鉄道株式会社 東急建設株式会社 東急電鉄株式会社 財団法人東京観光財団 西日本鉄道株式会社 西日本旅客鉄道株式会社 公益社団法人日本観光振興協会中部支部 日本空港ビルディング株式会社 専門学校日本ホテルスクール 羽田旅客サービス株式会社 株式会社パロックジャパンリミテッド 広島電鉄株式会社 福岡国際空港株式会社 北海道空港株式会社 株式会社ホテル小田急 ホテルメトロポリタン マイナミホールディングス株式会社 モバイルクリエイティブ株式会社 株式会社まるまんフィオーレ 三菱電機株式会社

**編集後記：** 2015年5月発行のJN紙101号で前任の加納さんから編集担当を引き継いでから満6年が経ちました。朝日新聞の出身でジャーナリストの加納さんと違い、編集業務にはずぶの素人であった私は、事務局を始め多くの人々の助けを得て、何とか今回まで役割を果たすことが出来ました。しかし、小生も来年、傘寿を迎え、複数の持病で知力、体力の衰えが顕著となり、今回をもって編集担当を辞することに致しました。

担当期間の前半は、インバウンドが好調で、外国人観光客の地方への波及など経済効果への期待と評価が高かった。しかしその後、有名観光地や大都市を中心に訪日外客が集中するオーバーツーリズム問題が発生、ブームを狙うホテル、民泊の増設による地価の上昇、観光客による住民生活の破壊などの問題が大きな課題となった。そして昨年より予期せぬ新型コロナウイルスが世界中で蔓延して状況は一変し、観光業界は大打撃を受けている。

業界の苦境の時に、業務を離れるのは心苦しいのですが、新しい編集長には、協会創立以来のメンバーで事務局長をされている杉さんが兼務されることになりました。新しい視点での紙面作りが期待されます。今後は一会員として体力が続く限り、協会を見守りたいと思います。長い間、駄文を読んでいただきありがとうございました。(北村)

## 特定非営利活動法人(NPO) JAPAN NOW 観光情報協会

東京都港区東麻布1-27-3  
〒106-0044  
電話 03(5989)0902  
FAX 03(5989)0903  
E-mail info@japannow.org  
https://www.japannow.org/

発行人：寺前 秀一  
編集長：北村 嵩

主な配布先：会員、中央官庁、地方自治体、民間企業、マスコミなど



【世界遺産】法隆寺 法隆寺地域の仏教建造物(世界遺産登録年：1993年) 奈良県

写真：Wikipedia 法隆寺 国宝 世界遺産 国宝・世界遺産法隆寺 (おこすまき) / エイティブ・コモンズ・ライセンス (表示 4.0 国際) を変更して作成。 https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/

- P1- 第二十期通常総会報告
- P2- 通常総会 記念講演 世界遺産・日本遺産
- P3- 鉄道車両は動く文化財⑤ / COLUMN
- P4- NEW SPOT
- P5- メディアから見た旅の変遷
- P6- 五輪に思う / デジタル化と・観光
- P7- アメリカこぼれ話 / セミナー報告 第168回
- P8- 気象と天気 / 編集後記

## 特定非営利活動法人 JAPAN NOW 観光情報協会 第二十期通常総会報告

JAPAN NOW 観光情報協会 理事長 寺前 秀一

2021年5月21日(金曜日)午後2時から午後2時42分までの間、東京都千代田区麹町4-5に所在する海事センタービル2階会議室で総会を開催した。COVID-19に関わる警戒宣言下であり、開催すること自体にも懸念があったが、十分な対策をとることにより実施した。

開催時点での会員総数は78名(うち法人会員21名)であり、3名の減少にとどまっていた。出席会員数は44名であり、定款の定める定足数を満たしていた。その内訳は本人出席が14名であり、書面表決者が30名であった。会員藤村留里が本日の総会は定足数を満たして有効に成立している旨を述べて、開会を宣言した。同人から議長の選任につき諮ったところ、満場一致をもって理事長の寺前秀一を議長に選任した。議事録署名人名につき、議長から本日出席の会員藤村留里及び会員杉行夫を指名し諮ったところ、満場一致をもって同意がなされた。

総会に提出された議題は、定款の定めるところにより理事長が作成し、3月に開催された理事会で承認された事項である。以下議案ごとに、第1号議案 2020年度(2020年4月1日から2021年3月31日まで。以下同じ)事業報告書、財産目録、貸借対照表及び収支計算書承認の件、第2号議案 2021年度(2021年4月1日から2022年3月31日まで。以下同じ)事業計画承認の件 第3号議案 2021年度収支予算承認の件 第4号議案 事務所所在地変更の件を審議した。

議長が1号議案を上程し、事業報告書、財産目録、貸借対照表及び収支計算書の内容につき概要を説明し、これについて監事の報告(書面)をもとに、いずれも正確かつ適正であり、理事の職務執行に関する不正の行為又は法令・定款に反する重大な事実は認められないと報告があった。なお、議長より、予算上想定していた寄付金80万円があつまらなかったこと及び事務所を退去し、それに伴う追加の支出があったことを補足説明した。本件について議決を求めたところ、全員異議無く原案どおり承認可決した。

議長が2号議案を上程し、2021年度事業計画の概要を説明して議決を求めたところ、異議無く原案どおり承認可決した。なお、同議案に関しては会員よりHPのアクセス数に関する意見が述べられた。議長が3号議案を上程し、2021年度収支予算の概要を説明して議決を求めたところ、全員異議無く原案どおり承認可決した。なお、収入予算の根拠となる会員数についてはコロナを想定して少なくしていることの説明を行ったが、会員確保には引き続き努力する旨説明した。

議長は上記議案を上程し、定款第2条(事務所)について、「東京都港区東麻布一丁目27番3号に置く。」に変更する旨決議を求めたところ、全員異議無く原案どおり承認可決した。なお、事務所については、将来的に事務所機能がさらに確保できる場所の確保及びその資金提供に関する意見がだされたが、それに関しては定款事項であり予算の議決措置が必要であることを説明した。

以上議決事項は、NPO法の定めるところにより、速やかに東京都に提出することとしている。なお、議案の詳細については、HP掲載の表を参照されたい。

2020年度通常総会終了後に開催された  
須田寛氏(JR東海相談役JN協会理事)による記念講演概要  
「世界遺産・日本遺産を観光に活かそう」

JR東海 相談役 須田 寛

日本の世界遺産・登録件数は最近急増し現在文化遺産19件、自然遺産5件、計24件になった。世界遺産はいまでもなく人類の共有すべき顕著かつ普遍的価値があるとして登録された遺産群という。これら遺産を守り人類社会発展の糧として活用しようとするもので、ユネスコがその事務局となっている。



最近の2019年登録の、百舌鳥古市古墳群、の中心、堺市の大仙古墳を訪れる機会があった。堺市で日本観光振興協会が地元団体と共催で開いたシンポジウム(ワークショップ)に出席した時であった。会議でこの古墳群の中核の大仙古墳(仁徳天皇陵)についてJN協会の梅原元四国支部長から同じ世界三大墳墓とされる秦の始皇帝、エジプト王ピラミッドに比し歴史的位置付け等の情報が欠如していて、両墳墓が世界から多くの観光客が集まるのに比べ非常に外人客の来訪が少ないことが指摘された。

大仙古墳は被葬者について多くの異論がでていること、又建設年代も4世紀頃として明確でないのが現状である。御陵のため発掘調査が許されないのが考古学的(科学的)検証が不十分なのだ。

熱心に世界遺産の登録を求め実現した以上その遺産所在国は学術的調査を徹底、歴史上の位置づけを世界に明確に正確に発信する責務があるのではないと思う。観光資源として最大級のものとなり得るものであるだけに、この点の検証と発信が待たれるところである。

一方日本遺産は文化庁が2020年まで2年にわたって日本の文化伝統を語るストーリーのあるものを個々のものとしてのみでなく、関係資源を全体として大きい資源群として登録するものである。2020年に京都、滋賀御陵にわたる「琵琶湖疏水」が登録された。

「琵琶湖疏水」は東京遷都でさびれた関西の経済復興をは

かるために琵琶湖面と京都盆地の標高差40mに着眼しこの間に水路を開発。まず運河として水運に利用。標高差を利用して水力発電を創始、京都大阪等幅広い地域の上水道等として多面的に活用するものである。さらに波及効果を活用、農地開拓、庭園(大規模名勝)の造成等も行ない大観光資源群の形成にまでつながるものであった。

しかし登録後の現地を見ると従来通り、哲学の径(疏水分線)、水路圏(高架水路)など、個別資源の観光に人々が見学(観光)に訪れるにすぎず、壮大なストーリーでつながる疏水をひとつの観光資源群としてまとめた観光を提案しようという動きが地元では感じられなかった。

日本遺産を活かすには、ストーリーでつながる多くの観光資源をひとつの資源として捉え、全体を見学してこそその意義が活かされると思う。このような提案をすることも登録を求めてきた地元の責務ではないかと思う。登録に熱心なあまり、それが実現したことのみで満足し、登録で地域のステイタスが上がったとよこぶのみでは、もの足りないものを感じる。

世界遺産・日本遺産のなかに潜在する膨大な情報を引出し、それに当該遺産に対する科学的調査による知見を加えた適確な情報発信によってこの両遺産を保全にも留意しつつ、国際レベルの大観光資源群としても活用すべきである。個々の資源のみならず大資源群として観光することにより広域観光の波も広がっていくのではなかろうか。

両遺産観光はそのように、これまでの観光の視点の幅をひろげてこそはじめてその真価にせまれるものと思う。

- 世界遺産の例**  
(海外) ガラパゴス諸島、マチュピチュ遺産、ナスカ地上絵、ピラミッド等(約200件)  
(日本) 姫路城、法隆寺、京都の文化財、白神山地、小笠原、屋久島など
- 日本遺産の例**  
日本の聖地出雲、千葉県成田 - 佐倉など江戸を支えるまちなみ、琵琶湖疏水など



アメリカごぼれ話 「大統領はカーボーイ = C・ルーズベルト」



セオドア・ルーズベルト 米国第26代大統領  
写真: wikipedia

元JTB取締役 北村 嵩

ニューヨークの裕福な古いオランダ系の家庭で育ったセオドア・ルーズベルトは1880年にハーバート大学を卒業し、翌年共和党からニューヨーク州議員になったが、1883年に西部のダコタ準州でカーボーイ生活を体験した。東部の都会っ子であった彼は丸形の大きな眼鏡をかけ、色は白く、やせっぽちで本好きの青年であった。案内役と一緒に馬に乗り、川を渡り、樹木の生い茂った丘を越え、流砂を突っ切って一日70キロも走り回った。鹿狩りを楽しみ、雄牛に突っかけられたりして1週間を過ごした後、西部に留まる決心をした。1万4千ドルを投資して自分で牧場の経営を始めたのだ。

活気に満ちた新しい西部での牧場暮らしで、身体が頑健になった。胸は厚く、首は太く、乗馬もうまくなり、眼鏡を落とさずに上手に乗りこなし、カーボーイたちに「4つ目の先生」と呼ばれ、尊敬を勝ち得た。もともと彼は陽気でうぬぼれが強かったが、このダコタでの牧場生活で身に付けた自信が後の政治生活にも大きな影響を与えた。1897年に海軍次官なるが、翌年、米西戦争が始まると、海軍次官を辞し、自ら「ラフライダー」(荒馬騎兵隊)と称する義勇軍を結成、キューバに上陸し、スペイン軍を破って、一躍国民



米国陸軍 第1合衆国義勇騎兵隊 (通称 Rough Riders)  
写真: 米国議会図書館 Web サイト(LOC #LC-USZ62-7626)

的ヒーローとなった。大統領就任後、「棍棒外交」を進める上で、荒くれカーボーイや、酒場での乱暴者との対決経験が影響を与えたかもしれない。

20世紀初頭に第26代大統領を務めたルーズベルトは、前任のマッキンレーが暗殺され、副大統領から急遽正大統領に就任した。時に42歳10か月で合衆国史上最年少の大統領であった。在任中は「スクエア・ディール」(公正な扱い)計画を唱え、反トラスト法違反の企業を相手に訴訟を起こし、炭鉱ストでは労使間の調停を行い、従来、大企業寄りの姿勢が明確であった共和党のイメージを一新させ、一般国民に強くアピールした。又、環境保護にも力を入れ、国立公園の制定推進にも尽力した。

一方外交面では「棍棒外交」を展開し、カリブ海諸国や中南米諸国の国家主権に介入し、多くの場合政府を転覆させ、親米傀儡政権を樹立する軍事介入を繰り返した。1906年に、日露戦争の講和条約の仲介等の功績で、アメリカ人として初めてノーベル平和賞を受賞している。

波乱に富んだ一生を送ったルーズベルトは、カーボーイの世界の思い出をいつまでも大事にしており、晩年、「私の生涯のロマンスが始まったのは西部だった」と回想している。

観光立国セミナー 第168回 4月16日 会場:MFPR渋谷ビル4階

元祖旅レポ(トラベルキャスター)から見た  
多媒体を使った旅の魅力の伝え方  
(株)トラベルキャスター 津田 令子

津田さんは(社)日本観光協会在籍中に、NHKのTV、ラジオなどでキャスターを務められ、同社を退職後は旅行ジャーナリストとして活躍中である。これまで国土交通省国土審議会専門委員(文化と生活委員会)、過疎地域問題調査委員等の役職を拝命され、2003年には、NHK地域放送文化賞を受賞された。

今回の講演では、「なぜ旅を生業としたか8つのポイント」を紹介し、具体的な地方の観光地や観光資源の魅力を、スライド等を使って紹介された。

- 1) 幼いころから旅が日常  
箱根、軽井沢、熱海、山中湖、伊豆、苗場、湯沢、鎌倉、湘南
- 2) 中・高・大で旅を学び、旅で成果を出し実績を作る  
高校で人文地理部の部長として、夏合宿を実現させた。伊勢志摩、小浜(福井)、三方五湖
- 3) 大手電機メーカー入社OL生活からトラベルジャーナル専門学校に入学。4カ月で日本観光協会に就職する
- 4) 日本観光協会で20年の経験  
カウンターで旅行相談、広報PR、旅番組室長を担当。この間、

- 人脈を培った。
- 5) NHKとの出会い  
19年間テレビ、24年間ラジオでの旅番組にレギュラー出演し情報発信。取材先は1万ヶ所。  
NHK学園、NHK文化センターとの出会いがあり、NHK地域放送文化賞受賞。
- 6) トラベルミステリーの巨匠・西村京太郎氏との出会い  
一緒に「トラベルミステリーV ストラベルキャスター」で全国講演。
- 7) 大学で非常勤講師  
これを機会にフリーランスの旅行ジャーナリストとして活動。
- 8) 人との出会いで今の私がある  
NPO法人ふるさとオンリーワンのまち理事長に就任(現職)

テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、講演、SMS、カルチャー教室での講座など多媒体を活かして地域をPRすることにより、効率的に、かつ効果的に、なおかつ旬を大切に徹底的に行うことが大切である。

「風に誘われて」を自費出版した折に西村京太郎氏に本の帯の推薦文を依頼。以後、氏との交際が始まる。著書には「日本を旅する浪漫紀行」「粋な味・乙な味・通な味 ぐるっと漫遊記」「接客革命」、秋山秀一氏との共著「もっと旅を」がある。  
講演終了後にはフロアから質問と感想が述べられた。

## 五輪に思う

小田急電鉄(株)特別社友 利光 國夫



ローザンヌの  
(IOC)本部前  
にある記念碑  
(photo:wikipedia)

武漢ウィルスに端を発したコロナ騒動は一向に収束の目途が立たず、政府や自治体の場当たりの対応、批判するだけで対策は示せなく不安を煽るだけのマスコミというお馴染みの展開で、一般国民の困惑は深まるばかりである。ここにきて今夏開催予定の五輪中止論が急浮上してきたのは至極当然というべきだろう。

現在五輪中止論はいわゆる左翼リベラル陣営を主軸に展開しているが、そちら側の意図とは別に私も五輪は中止すべきだと思っている。もともと私は東京五輪自体に賛成ではなかった。前回の東京五輪は、第二次世界大戦で敗れ荒廃した我が国が経済復興を果たし、国民が自信と希望を持って高度成長への門出を歩み始めたことを内外に示したという点で大きな意味をもっていた。五輪が自信と希望を持たせたのではなく、自信と希望を持たせたからこそ五輪をやれたのである。それに対して今回の五輪は、長引く不況から脱出する目途もなく国の安全保障は脅かされるまま、およそ五輪などに手を挙げている状況ではないと感じていたからである。そこにコロナ禍が加わったのだが、これによって我が国の危機管理能力が如何にお粗末であるかが露呈しつつあるのはまことに情けない次第である。こんな状況でこれからコロナ騒動を収束させて安全安心な五輪を実現できるとは到底思えない。更にいうならば、現在の五輪そのものが商業資本に毒されており、その利権追及の場となって且つてのような純粋なスポーツの祭典とはかけ離れたものと化していることがある。もし純粋にアスリートの最高のパフォーマンスを期待するのならば、高温多湿の東京の夏ほど不適切な時期はないということは自明であるにもかかわらず、商業資本の都合でこの時期に誘致すること自体私は不賛成なのだ。

鳴り物入りで行われている聖火リレーなどはもともと五輪とは無関係で、1936年のベルリン五輪でナチスがプロパガンダの目玉として始めたものだが、ヒトラーを百パーセント否定するのが常であるメディアはこれには全く言及しないのも不思議である。

こうしてみると五輪が純粋なスポーツの祭典の名に値したのはほんの初期だけで、近代の五輪の大半は国際的に政治権力と商業資本の道具であったというのは言い過ぎだろうか。

先日ある識者の方が五輪の実態について話しておられたが「これから本当の五輪を復活させるためには原点に帰って毎回発祥の地であるギリシャで開催することにしたらどうか」と言われたのに私もいささか同感である。

## デジタル化と人流・観光(2)

人流観光研究所長 寺前 秀一

人流と通信は、相乗効果、補完効果に加えて代替効果があり、通信が発達すれば、相乗・補完効果、代替効果によりその分人流が増加、減少することは、観光ガイドブックや飛脚制度を持ち出すまでもない。従って人流・観光は、デジタル化の影響を十分に考慮しなければならず、今回のコロナ禍では、これまでの観念的な議論に留まらず、現実のもととして在宅勤務、オンライン会議等が実施されている。この在宅勤務等がこれまで進展しなかった理由として、ソフト面での対応の不備が指摘されている。日本型労働慣行は非ジョブ型であり、職能給、非言語的情報伝達が特徴である。これを判例が支えてきた。これに対してジョブ型は欠員補充型であり、職務給、職務記述型が特徴である。日本型の発生原因は、高度経済成長期における子飼いの労働者確保にあったといわれる。しかし、技術革新のスピードが短期間化し、社内教育中心の非ジョブ型の崩壊が、非正規雇用につながり、併せて残業時間のブラック化等の社会問題を引き起こしていた。そこへ今回のコロナ禍により、テレワーク等が一気に現実化したのである。その結果、労働条件の変化が認識され、労働時間、転勤等の労働の従属性、事業場概念(労働災害、サイバー空間等)の再検討が必要となってきた。

ところが、観光産業はおもてなしの強調に代表されるようにジョブ型の要素が強いものの、典型的な対面接触産業に範疇化されてきたことから、コロナによる人流の自粛等の影響を直接被ってしまったとされている。

物流概念は、利用者ニーズに対応した効率的なサービスを基本とし、ムーブレス志向の無駄な移動や在庫を排除する概念を内包する。国際物流等はデジタル技術を活用してサプライチェーンを形成し、NVOCC(Non-Vessel Operating Common Carrier)等が利用者に対してトータルで責任を負うことでこれまで発展してきた。

近年、人流でもデジタル化に応じてMAAS(Mobility as a service)概念が提唱されている。昔からある都市交通の共通運賃制概念の延長にあるものであるが、これを中心的に推進する体制が不備である。利用者ニーズを統合・管理する人流版NVOCCに相当する者が、旅行業法上は利用運送、利用宿泊を規定はするものの、標準約款も公示されておらず、せいぜい単発の請負責任の曖昧な企画旅行(パッケージツアー)程度である。

コロナ禍を契機として、移動しないでも様々なサービスを受けることができるムーブレスを排除しない概念を再構築する必要がある。物流概念も物を安く作って高く売るという利潤モデルに行き詰まりを見せ始めたことから進展している。無駄な消費への嫌悪感がシェアリングエコノミーも生み出している。観光も、中途半端なエコツーリズム等の提唱ではなく、ムーブレスを排除しない在宅・在地娯楽を包含する人流概念に統合しなければならない。

## 鉄道車両は動く「文化財」⑤

JR東海 相談役 須田 寛



京都電気鉄道電車(京都市交通局2号電車)明治44年(1911) 写真提供:交通新聞社

### 日本の電車の元祖

〃京都市交通局狭軌2号電車、(明治44年梅鉢鉄工場製)

日本の電車は明治28年(1895年)京都市で運行されたのが最初です。京都市塩小路(京都駅付近)伏見油掛間約6.7Kmに運転された狭軌路面電車がその元祖です。京都電気鉄道という民鉄でした。

京都は鉄道開通までは大阪との交通は主に宇治川・淀川の舟運に依存していました。その伏見港から京都市内南部までの約6kmを狭軌電車で結びました。京都大阪間の鉄道は明治9年に開通していますがその後も舟運は残り、伏見地区も旧城下町としてかなりの人口があったのでこの両地域を結ぶ日本初の電車にも多くの乗客がありました。当時既に京都市では琵琶湖水による日本初の水力発電所が完成してい

たので、動力源も得やすかったため本邦初の電車を導入したのです。

開通当初の電車は、馬車の御者台のような吹きさらしの運転台で乗務員は雨の日は雨合羽を着て乗務したそうです。集電は手動のポールでブレーキも手回しハンドルで扱う手動式、そして警笛の代わりに使うフットゴング(足踏み式の警鐘)と発車合図の鐘の音からチンチン電車の俗称が生まれました。

明治45年には京都でも市電が開業、京電線と市内を競合して運行、一部では広狭軌の差(市電は広軌)を三線レール方式で解決して同一路線を両社の電車が走りました。令和元年重要文化財に指定された2号電車は京電(社)時代の製造で京都市電が買収し市内電車を一元化した大正7年京都市に引き継がれた車両です。

市電は京電引継の狭軌電車に狭軌を示す「N」を冠して付番したので、通称「N電」と言われました。この車両は「N32」と付番され、買収後狭軌北野線での運行が昭和36年に終るまで在籍しました。(途中改番があり「N」を外して「2号」電車となる)

現在は平安神宮神苑に展示され往時の姿をとどめています。運転台に前面ガラス窓が入るなど、改良点がいくつかみられるほかは、明治時代の元祖路面電車の姿を今に残す貴重な車両として、令和2年国の重要文化財に指定されました。



写真:wikipediaより 博物館明治村にて

### COLUMN

### イスラエル入国の証

しばらく鳴りを潜めていた仇敵への怨念がまた火を噴いた。ユダヤ教国のイスラエルが、イスラム教の聖地であるパレスチナ自治区ガザ地区を砲撃したのだ。直ちにイスラム原理主義組織ハマスが反撃した。11日後急転直下ひとまず停戦合意により戦火は収まった。

古都エルサレムは、ユダヤ教、イスラム教、そしてキリスト教の世界3大宗教の聖地として知られている。中でも因縁深いユダヤ教とイスラム教は、生誕以来今日まで長い間対立を続け、それぞれを信奉するイスラエルとアラブ系パレスチナは、古代から近年の中東戦争に至るまで断続的に戦闘を繰り返してきた。

イエス・キリストが誕生した馬小屋は「降誕教会」と呼ばれて、パレスチナのベツレヘムにあり、キリストが磔にされた「ゴルゴダの丘」や、「嘆きの壁」はイスラエルがヨルダンから奪い取った東エルサレムにある。ユダヤ教徒とイスラム教徒がそれらを攻撃することは、キリスト教やお互いが信奉する宗教の神聖なるものを冒瀆することにもなる。

第3次中東戦争直後の1967年、戒厳令下のヨルダンから

敵対国イスラエルへ入国しようと試みたが、厳しい軍の警戒網に遮られて叶わなかった。それから45年を経て戦闘停止状態のヨルダンからイスラエルへ陸路入国することができた。東エルサレムとパレスチナで3大宗教の聖地を参拝して、翌日ヨルダンへ舞い戻って来た。

ところが、旅券を見てみるとそこにはイスラエル出入国の証である筈の、スタンプやビザなどの渡航を証明するエビデンスがまったくない。通常どこの国でも国境を越えて入国すれば、決まって出入国の証明スタンプが押印される。だが、私の旅券上にはイスラエルへの出入国を証明するようなスタンプ類が一切ない。

1度イスラエルへ入国したら他のアラブ国へ2度と入国できない。そこでアラブ国及びイスラエルが入国者へ親心を示したのか、敵国への憎しみを我慢し、一旦イスラエルへ渡航してもアラブ国へ入国できるよう旅券にイスラエルの出入国記録を残さないようにした。

2012年6月、私は国境検問所を通り堂々イスラエルへ入国した。しかし、旅券上にはイスラエルへいつ入国したのか、その痕跡も証もまったく残されていない。エッセイスト 近藤 節夫

## 「大学ミュージアム」



新ミュージアム KeMCo から慶應義塾史展示館が入る図書館旧館を望む

三田の慶應義塾に2つのミュージアムが誕生した。福澤諭吉の生涯と近代日本の歩みをたどる塾史展示館と、各キャンパスに分散した文化財の収納展示をネットで結ぶHUB施設「ミュージアム・コモンズ(KeMCo)」。ケムコはデジタル保存や未来創造の技術開発を担い、小中高一貫の人材育成にも役立てる。一方の私学の雄、早稲田大学は設立93年の伝統を誇る坪内(逍遙)博士記念演劇博物館はじめ、書家・歌人・美術史家の會津八一記念博物館、スポーツミュージアム、歴史館など幅広い。埼玉・本庄キャンパスの「早稲田の杜ミュージアム」は地元自治体と共同運営し、歴史と文化の魅力を発信する。

## 身近な大学博物館に学びのお宝いっぱい

全国の大学に100館ほど博物館がある。貴重な日本文化を伝える総合博物館から専門分野の小規模展示室まで多種多様で、歴史、科学、考古学、人類、自然、動植物、食、農業、医歯学、芸術、美術、工芸、工業、鉱業、水産、海洋、戦争、平和、宗教、民俗、風俗、ファッション、楽器、スポーツ、創立者記念、著名卒業生の業績など、身近な大学の博物館に学びのお宝がいっぱいだ。東京・神田駿河台の明治大学博物館は前身が商品、刑事、考古学の3つの博物館で、生活文化、法と人権、人類の多様性がテーマ。併設の阿久悠記念館は同大文学部卒で多数の歌謡曲ヒットを出した



作詞家の資料を保存。経堂にある東京農業大学「食と農」の博物館は生産と消費、農村と都市を結んで産学協同を推進し、温室などで楽しく見る・聞く・触る・味わう学びの場だ。入口の鶏モニュメント(写真)が目を引き。東京家政大学博物館(板橋)の衣食文化や紀尾井町の城西大学大石化石ギャラリー、武

蔵野音楽大学や大阪音楽大学など楽器収集も魅力のお宝だ。神奈川県相模原で獣医学の歴史を持つ麻布大学いこの博物館は病理や動物標本が特色。静岡・三保の松原近くの東海大学海洋科学博物館は環境や資源に重点を置く水族館だ。京都工芸繊維大学美術工芸資料館は京の伝統文化、金工、漆工、陶磁器、繊維品など収蔵。同志社大学歴史資料館は国内外の考古・民族・民俗資料やキャンパスの発掘収集物を保存し、御所東側にある創立者の新島旧邸は和洋折衷の二階建てが人気だ。京都精華大学は京都市と共同で国際マンガミュージアムを開設。立命館大学国際平和ミュージアムは戦争と平和をテーマに民主主義を訴える。2年後のリニューアル開館が待ち遠しい。

国立の東京大学総合研究博物館は本郷本館などのほか、蓄積した歴史的な学術標本を日本郵便と運営する丸の内「インターメディアテク」に集約し、未来へ向けた活用を図る。京都大学総合博物館は自然、文化、技術の常設3部門で、霊長類学の展示や「江戸時代の京都図」など興味深い。地球と資源研究の秋田大学鉱業博物館は珍しい岩石や化石を多数展示。札幌の北海道大学総合博物館は400万点に及ぶ学術標本、資料を収蔵、付設の同大植物園は希少植物や高山植物の保全管理に力を入れる。



JR札幌駅から徒歩10分、市民憩いの北海道大学植物園

## コロナ下、「おうちミュージアム」に参加

コロナ禍で長期休館を余儀なくされ、どこも観覧は確認が必要だ。東京・三鷹の国際基督教大学博物館湯浅八郎記念館は、中止した展覧会や所蔵品などをサイト上で編集し、巣ごもりの自宅で学べる動画など配信する。札幌の北海道博物館が呼びかけた「おうちミュージアム」(図:PRロゴ)の参加で、仙台の東北学院大、東北福祉大、東京の國學院大、明治大、東京海洋大、松本の信州大、愛知・豊田の中京大、三重・伊勢の皇学館大、沖縄の琉球大などの博物館サイトで観覧できる。まだ参加は少ないが、コロナ後も生きた展示手法として一層の充実が期待される。

文・写真 林 莊祐

## メディアから見た旅の変遷「旅は世につれ」その(一)

旅行ジャーナリスト 沓掛 博光

「旅は世につれ」と言われるが、旅もまたしかり。世相を反映して旅も様々に変遷してきた。時代の流れや社会の動きに影響され、その形や過ごし方は変化してきている。

古くは防人の軍事のための旅、遣唐使の留学の旅、あるいは熊野詣の信仰の旅など他に目的を持った移動手段としての旅が主流であったが、時代の変化と共に楽しみを求めての旅、つまり観光(旅行)が主流となって今日まで引き継がれている。その観光も世の中の動きを反映して色々に変わってきている。

私は月刊誌「旅行読売」の編集部勤務を出発点にして今日まで観光情報を発信してきた。この間、TV(読売、日本テレビ「2時のワイドショー」)ラジオ(TBSラジオ「大沢悠里のゆうゆうワイド」、「コンシェルジュ沓掛博光の旅しま専科」、東京FM「住吉美紀 Blue Ocean」等)にも出演。四季やテーマをとらえた旅の情報は月刊誌から、その日、その週に求められている観光情報は電波メディアから発信し、現在は朝日新聞言論サイト「論座」で『人生100年時代の旅の愉しみ』をテーマに今求められている旅の姿とその背景を発信している。月刊誌の時代から数えて今年で48年、そろそろ半世紀を迎える。旅の先学でいらっしゃる須田 寛理事はじめ多くの諸先輩がおられる中で、はなはだ僭越ではありますが、そうした様々なメディアを通しての観光情報の発信から見えてくる観光の移り変わりを私見を交えながらお伝えしたい。



隠岐諸島、島後の水若酢神社でのオンラインによる参拝。宮司も初めての体験＝筆者撮影

まずは直近の事例としてオンラインツアーを取りあげる。これは現代社会においては経験したことのない、全世界に広がるコロナ禍にあって、行きたくても行けない観光(予定)者とぜひ来て欲しいと待ち望む観光地の事業者等をオンラインで結んだツアー。IT技術と関係者の知恵が実を結んだ、今までにない旅の楽しみ方である。新型コロナウイルスが広がり始めた昨年からの登場し、国内外の観光地域を舞台に展開している。

すでに体験されたり、ご存知の方も多いと思われるが、これはオンラインによる会議アプリ「Zoom」を使用したツアーで、パソコンやスマートフォンからツアーに参加する。

いわば家などに居ながらにして観光の楽しさを味わう新し

い旅のスタイルである。こう述べても、それでは観光にならないのではないか、移動のない旅は旅とは言えないのではといったご指摘が出てくると思われる。

確かに、観光は居住地を離れ、再び戻って来るという定義や解釈が国内外で広く取り入れられていることから、オンラインツアーは旅そのものではないと言える。しかし、今回、国内の島根県隠岐諸島と沖縄県の離島、海外ではクロアチアのザグレブのオンラインツアーを取材してみて、旅そのものではないが、旅の楽しみが体験できるということが実感できた。



隠岐酒造の酒蔵で「オンライン乾杯」＝筆者撮影

オンラインツアーはライブによる現地からの動画中継が基本で、映像と共に案内の方が解説を行い、場合によっては事前に参加者へ送付した資料やその土地のお酒やワインなどの名産品と一緒に見たり、味わったり、あるいは料理を作ったりなどしながら双方向でその地域での観光を楽しむ。リアルな旅と比較すれば、見る風景のスケールや五感に訴えてくる臨場感、そこから生まれる感動は薄い、現地の人と交流しながらその地域のあれこれを知ったり、当事者ならではの思いを共有したりなど居ながらにして旅先での楽しみを体験することができるという魅力がある。

オンラインツアーではライブ中継のほか、天候の急変や移動時間の都合などを考慮して一部にビデオ映像を加えているが、全体としてはライブ中継で進行する。前述したが、参加者と現地の方との交流はチャットやマイクを使ってやりとりしあるいは参加者同士がチャットを通じて情報交換したりなどTVで見られるような一方通行的な旅番組とは異なり、現地とツアー参加者がオンラインでインターラクティブに結ばれているところが大きな特性と言える。

これらオンラインツアーについては連載している朝日新聞社の言論サイト「論座」で2回にわたって記事にまとめた。その読者からの感想や隠岐諸島及び沖縄県の離島ツアー、ザグレブの町歩きについて各主催者に寄せられた参加者の反応、さらにはそこから見えてくる新しい旅の姿については次号で述べてみたい。



隠岐諸島独特の建築様式を専門のガイドが、参加者からの質問を受けながら解説＝筆者撮影